

令和7年度学校評価

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革の推進 ○ICT活用による教育の充実 ○生徒への多様な支援 		
分掌	重点目標	具体的方策		留意事項
1	総務	広報活動の充実	「学校案内」「蔵高News」などの広報誌を充実させ、本校の魅力をアピールする。	・生徒の頑張っている姿や本校の良いところが、よりわかりやすく伝わるように工夫する。
		さまざまなPTA活動のサポートをする。	・PTA役員・委員と教職員の連携を密にしていく。 ・活動していただくことの再検証を行う。	・PTA役員委員の方々が、より負担が少なく、より意味のあるものにしていただけるようサポートしていく。 ・昨年度初めて実施していた、けやき祭(体育祭)でのジュース販売を含め、「昨年度と同じ」とせず、今年度の役員・委員の方々と検討し活動していきけるようにする。
	進路指導	進路についての視野を広げ、主体的に考える姿勢の育成	・進路講演会や大学出張講義等、進路関連行事の充実を図る。 ・各学年と連携して進路探究の内容をブラッシュアップし、生徒の進路意識の高揚を図る。	・自己の適性・興味・能力を生かした的確な進路選択ができるようにする。 ・業者を利用することもあるが、十分な打ち合わせを行う。
		生徒と教員に対しての積極的な情報発信	・教室や廊下への掲示物等を充実させて、生徒の進路選択の参考になる情報を積極的に発信する。 ・教員が安心して進路指導できるように、様々な統計データや役立つ資料などの情報を発信する。	・進路情報を精選し、生徒の実態や時代に合わせた指導を目指す。
2	教務	新しい観点別評価を改善する	・より適切な成績評価が行えるような方法の研究と情報提供をする。 ・生徒の学力向上と教員の業務増加防止の両方の視点から考えていく。 ・簡単で、かつ、ミスが起きにくい成績処理方法を研究する。	・教員の日常的な情報交換だけでなく、他校や中学校の情報等も積極的に収集する。 ・設定・運用を進めていくが、システム上でできないことも多く、その都度調整が必要である。
		総合的な探究の時間の内容の充実	・社会の一員であることを自覚し、それに向けて成長していく実感が持てる内容を検討する。 ・効果的な実施時期や教科とのつながりを研究し、時間数の調整をする。 ・協働的な活動や講師を招いた講演会を実施するなど、外部の機関の活用を研究する。	・教員の異動等があっても、持続可能な内容であることや、特定の教員に負担が集中しないことを考慮する。 ・教科、分掌との連携を密に図る。
	図書	蔵書の整理をすすめ、心地よい空間・居場所であるように環境を整える。 また授業や創蔵の時間での活用や生徒の自主的な学習活動や読書活動をすすめる	・蔵書の整理を進め、書架の有効活用を図る。 ・生徒、職員が利活用しやすく、心地良く過ごせる空間を保持する。 ・寄贈本の受け入れや管理することのできる環境を整える。 ・生徒及び教職員のニーズに応じたバランスの良い蔵書構成となるよう選定に努める。 ・生徒の学習活動や修学旅行などの行事に対応した図書館利用を提案していく。	・蔵書の整理については計画的・継続的にすすめていく。寄贈本の受け入れ基準、配置場所など整理していく。
		生徒の文化的な活動の場として図書委員や生徒の主体的な活動をサポートする。	・図書館で生徒の作品を展示・発表する機会を増やす。 ・委員には行事での役割分担を具体的に示し、活動を促す。	・生徒が無理なく参加し、活動できる日程や内容であるように配慮する。 ・図書委員や生徒の作品の展示・発表に際してはポスターやSNSなどで告知し、多くの生徒に見てもらえるようにする。
		・図書館で生徒の作品を展示・発表する機会を増やす。 ・委員には行事での役割分担を具体的に示し、活動を促す。	・生徒向けに『図書館だより』や『図書館広場』を定期的に発行する。 ・委員からクラスへの連絡、ポスター、SNSなどで図書館行事への参加を促す。	
3	特別活動	学校行事や生徒会活動において、生徒が主体的にかつ協力して活動に取り組む姿勢を養う。	・生徒会や委員会の活動を促し、生徒が自主的、かつ協力的に取り組むことができるような環境を整える。	・生徒会や実行委員会、委員会の役割を明確にし、意欲的に行動しやすい環境を作る。
		学校内外への情報発信	・HP、生徒会だより、校内掲示板の活用及び整備。	・SNSの活用、校内掲示板の掲示の仕方に工夫する。掲示板の新設。
	保健	生徒情報の共有と対話への活用	・個々の生徒が抱える心身の諸問題に対し、全職員で連携を図り、生徒一人一人に寄り添う対応を行う。 ・SC,SSW等の活用と外部機関との連携を図る。また、支援部会でのケース会議をもとに、その対応や対策を検討・実践し、問題解決の一助とする。	・特別支援に関する問題に対して家庭と密に連絡を取り、守秘義務を鑑みながらより良い対応を検討・実践する。 ・外部機関とは、SC,SSW,春日井市子ども支援課、医療機関、児童相談所など。 ・相談室(元気ルーム)の活用、図書部との連携を図る。
		ゴミの減量	・ゴミの持ち帰り、分別の徹底を図り、ゴミの減量に努める。 ・ペーパーレス化の推進。 ・ペットボトルの分別回収の徹底。	・清掃道具の保管場所の明示、ゴミ処理方法、回収場所の明確化を図る。 ・ICTを活用し、紙の資料を減らすと共に、リサイクルの推奨。
学校全体	生徒指導	交通安全の励行 交通事故の減少	・交通事故件数の減少 ・登校時、下校時の交通指導と身だしなみ指導など注意喚起を促す。 ・集会時やSTを利用して、交通安全について呼びかけをする。	・自転車の乗車マナーを遵守させる。 ・被害者のみならず、加害者になる可能性について理解させる。 ・交通事故について調査を進め経年比較をする。
		情報モラルの向上	・情報モラルについて講演会を実施する。 ・集会時やLT・STを利用してモラルの向上を図る。 ・アンケートを通して、スマートフォンなどの情報機器の利用状況を把握し、適正な利用ができるように理解させる。	・個人情報の流出をさせない、ネット上で誹謗中傷をしないなど情報に関するモラルやマナーを理解させる。 ・情報モラルに関する知識を深め、規範意識の向上を図るとともに、事件に巻き込まれないように指導する。
		基本的な生活習慣の確立	・遅刻・早退・欠席数の減少に努める。 ・授業の始まり等の時間を守らせる。 ・高校生としてふさわしい頭髪や服装規定を遵守した容姿にさせる。	・時間や生活リズムを守ることを日常から指導する。 ・保護者と連絡を密にして、欠席、遅刻、早退の減少に努める。 ・身だしなみや言動について日常から指導する。
学校全体	働き方改革の推進	・最終施錠時間、勤務時間外の電話対応時間の見直しと徹底。 ・各種会議資料等のペーパーレス化推進。 ・業務軽減のための「ひと手間を省く」工夫と改善。	・生徒へのより良い教育を実現するため、教員の長時間勤務の是正、ウェルビーイングの向上に努める。 ・PDCAサイクルを意識して業務を見直し、効果的な取組の共有を図る。	
	ICT活用による教育の充実	・スクール・ポリシーに基づくカリキュラムマネジメントの推進。 ・授業支援アプリ、採点システム等の活用の推進。 ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組。	・教育課程の実施状況の評価し、スクール・ポリシーに基づき改善を図る。 ・ICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。 ・生徒の主体的な向学心を刺激する、授業改善に取り組む。	
	多様な生徒への支援	・支援部会、相談委員会、学年主任会での情報共有と対応方法等の協議。 ・教員と保護者、SCやSSW・外部機関との連携。 ・特別支援教育や教育相談についての職員研修の実施。	・学校生活を、安全・安心・快適に送れるよう、生徒の心身の健康状態を丁寧に把握する。 ・一人一人の教育的ニーズを把握し、個々の持つ力の伸長や困難さの軽減と改善のため、必要かつ有効な支援や指導を行う。	
学校関係者評価を実施する主な評価項目		重点目標の達成度、学習指導と家庭生活の充実、国際教育への取組み、交通安全や身だしなみ指導への取組み、進路実現に向けた情報提供や行事への取組み、教育相談体制、校内美化活動、学校行事や部活動指導への取組み、学校いじめ防止基本方針に基づく取組み、勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に向けた取組み		